

# 平成 29 年度 第 2 回 学校協議会報告

【日 時】 平成 29 年 11 月 29 日 (水) 18 時～20 時 授業見学後、小会議室にて話し合い

## 【出席者】

学校協議会委員： 岩井 英雅 (元府立学校准校長) 大原武史 (寝屋川市立第一中学校長)  
神戸 尚史 (校医、産業医) 水野 洋子 (PTA 定時制委員会委員長)  
土 静江 (北水会) 西田 智子 (PTA 定時制委員会副委員長)

准 校 長：大森 孝志  
事 務 局：伊藤 牧子 (教頭) 北村 陽子 (首席・養護教諭) 林 雄大 (教務主任)  
庄司 樹生 (生徒指導主事) 中村 久子 (進路指導主事) 藤村 幸博 (保健主事)  
神原 優希 (4 年学年主任) 田代 興太郎 (3 年学年主任)

## 1 開会

## 2 准校長挨拶

## 3 会長挨拶

## 4 授業見学

1 限授業見学 選択 A 2、3、4 年 科学と人間生活 (神原)  
現代文 I (鈴木)  
1-1a 標準数学 (渡邊)

### 【授業見学の感想】

- ・非常にわかりやすい授業だった。5 分間しか見学できなかったもので、その後の展開が気になった。
- ・動画を見ながらプリントを埋めていく授業では、生徒の集中力が要求されると思った。
- ・教室が寒かった。遅刻者のために、教室の前扉を開けっ放しにしているのか？
- ・楽しく参加した。もっと聞いていたいと思った。
- ・少人数で、教員が生徒一人ひとりに声かけをしているのが印象に残った。

【提言】次回から、初めの 5 分だけの見学ではなく、その後、授業がどのように展開していくのかを感じ取れるように、同じ授業の後半の時間に、もう 1 回見学できるようにしたい。

## 5 協議

### (1) 第 1 回授業アンケート結果

#### 【全校平均のポイントが下がったもの】

- ① 生徒取組 1 私は授業中、携帯・居眠り・私語をしていない。3.45⇒3.34
- ② 教材活用 先生は視聴覚教材など、色々な教材を工夫して授業を行っている。3.27⇒3.19
- ③ 生徒意識 1 授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。3.17⇒3.14
- ④ 生徒意識 2 授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている。3.22⇒3.16

#### 【考えられる原因】

教員に実施したアンケート結果から一番多いもの

- ① 携帯については、生徒がより巧妙に教員に隠れて携帯を見るようになっている。
  - ② 教員は ICT を休み時間の 5 分にセッティングすることに困難を感じている。
  - ③ ②の教材工夫の減とかかわりがある。
  - ④ 生徒は身につけているはずなのに、身についたという意識をもっていない。
- ※②の ICT セッティングについては、今年 11 月に、全教室にプロジェクターが設置されたことにより、今後、セッティングに関する問題は解決されると思われる。

【提言】アンケート結果を分析し、改善点を見出すことが大切である。  
全校平均のポイントは下がっているが、それほど大きな下降ではない。②については、全教室にプロジェクターが設置されたため、ICT の準備・片づけが容易になるので、さらなる ICT 活用を期待したい。

(2) 分掌の取組みの進捗状況について

【生徒指導部】（「分掌チャレンジ」の資料参照）

在校生の行事参加率が目標の50%を超えた結果となった。

生徒の取組む姿勢がよくなっていっているので、参加率が上がった。準備から片付けまでを手伝ってくれるなど、生徒による行事への積極的な参加があった。外部来校者数が毎年増えてきている。子どもの学校生活に関心を持つ保護者が増加してきたと思われる。

【進路保健部】（「分掌チャレンジ」の資料参照）

進路関係 11月29日現在

進学：大学1 専門学校7

就職：学校紹介15名中10名内定

全職員による企業訪問が成果を出し、求人率は昨年度よりも1.5倍に増えている。

保健関係

11月の大地震・停電を想定した訓練では、安全確認時間も含めて迅速に7分で体育館まで避難できた。安全点検は年2回実施し、教職員で修理できるところは修理した。

【教務】（「分掌チャレンジ」の資料参照）

授業見学週間 11月は11名が参加した。校内巡回等の役割分担がある中で、見学が難しくなっている。

授業のビデオ映像を自己チェックし、よりわかりやすい授業作りをすることを今後も続けたい。全教室に設置型のプロジェクターがついたので、活用しやすくなった。

今後もICT活用に力を入れたい

【首席】（「分掌チャレンジ」の資料参照）

【各学年情報】

3年 まじめな生徒が多く学校行事等もよく参加している。(遠足36名参加 修学旅行33名参加)  
クラブ活動の所属数 86名中24名 生徒会4名(定員7名)

4年 生徒が落ち着いて学校生活が取組めるように、人間関係も含め何かと配慮してきたが、生徒が、今後、社会に出て行くことを考えると、手厚くサポートし過ぎた面があるので、卒業に向け、本当の意味で、自立させるように見守っていきたい。

【提言】学校生活において、生徒自身が考え、意見を言うことに配慮し、生徒一人ひとりのことをよく考えてもらっている。様々な経験を通して自信をつけることが大切だ。定時制高校でやり直せることがたくさんあるということを知ってほしい。

【提言】生徒や保護者が「とりあえず高校に行けば何とかなる」ではなく、どう社会と関わるかを考えて選択肢の一つとして定時制を考えている。若い人材をどう確保するかは、日本の大きな課題である。高校で勉強することが何に役立つのか、高校卒業した後、次はどうするかが見えてくれば、現在の学校生活が定着するだろう。就労までを見据えた上で進学を考えていかなければならない。

【継続して取り組む課題】

- 図書室利用の増加をめざす。本を読む習慣を身につけることで一生が豊かになる。
- 障がいのある生徒が、進学先を支援学校と定時制高校のどちらを選択するか悩んでいるケースが増加している。高等学校においても、支援教育の専門的な知識を研修等で得ることがますます必要になってきている。
- さらに、わかりやすい授業に取り組む。
- 授業において、生徒自身に「考える時間」を与える。
- 生徒に寄り添うために、じっくりと生徒の話を聴く。